

事例紹介 II

地域ニーズに応える

地域の“現場”からの要請に応えたり、
自ら地域ニーズをくみ取って行う
社会貢献活動。
地域社会に潜在する
多様な課題解決に向けて、
有効な手立てとなり得る取組方法です。



2



1



3

①写真左から、山の手小学校の中島教頭、自身も青色回転灯装備車でパトロールを行う山の手セーフティ・ネットの平賀代表、光星ハイヤー執行役員の篠原統括本部長、活動開始当初から参加している同社ドライバーの高崎和成さん
 ②山の手小学校の入学式の日に行われたタクシーパトロール出発式
 ③同校の児童玄関に置かれた箱には、ドライバーが着用するベストや帽子などの“見守りアイテム”が入っている

タクシー

光星ハイヤー株式会社

中央区北4西13

地域安全 ■社員参加

タクシー会社として 地域のためにできることを

全国的に子どもが被害に遭う事件が相次ぐなか、光星ハイヤーでは顧客エリアの山の手地区で、タクシーを使った通学路のパトロールを検討していました。同地区では平成16年に「山の手セーフティ・ネット」が発足。地域ぐるみで子どもの登下校の安全を見守る活動に取り組んでいます。その代表者が同社OBですが、その代表者が同社OBだった縁もあり、「ぜひ協力してほしい」との要請を受け、構想を実行に移すことを決断。平成17年4月からパトロールをスタートさせました。

現在は札幌市立山の手小学校と山の手南小学校の各校区内を月々金曜日の下校時に2時間、1台のタクシーを非営業状態にして巡回。社内での呼びかけに手を挙げた社員が交替で参加しています。見守り活動を行うのは本業の忙しい時間帯だけに、継続できている大きな要因のひとつは社員から理解が得られていることです。会社としての費用負担もあり

子どもの安全を見守る ボランティアパトロールを実施 協力し支え合う地域社会に向けて

地域の活動に参画し、西区山の手にある2つの小学校の通学区域を自社のタクシーでパトロールする光星ハイヤー。会社の特徴を活かした見守り活動を通して地域の防犯に大きな役割を果たし、子どもたちの安全・安心に貢献しています。

ますが、「こういう時代だからこそ地域の支え合いを大切にしたい」と篠原洋統括本部長。自身もパトロールドライバー第1号を務めた経験があるそうです。

山の手セーフティ・ネットの平賀典明代表は「全面的な協力によって安全への大きな力が加わり、確実に不審者情報が減っている」とその効果を評価。また、山の手小学校の中島啓子教頭は「本当にありがたく、感謝の一言に尽きる」と話します。

パトロールを通じて 子どもたちに意識の変化も

「安全」という言葉の考え方が変わった（自分のためだけでなく、友達も危険から守り、みんなと助け合う意味だと思った）」「ひとりで歩かず、近道をしなくて通学路で帰るようになった」など、同社には両校児童からの作文が寄せられています。パトロールは、子どもたちが自己防衛意識を身に付けるという効果を生むことにもつながりました。

「パトロール中」と書かれたマグネットシールを貼った車でゆっくり走行しながら、ドライバーが児童と手を振り合ったり挨拶を交わすのは地域でおなじみの光景に。社内では社長以下全社員が情報を共有し、やりがいをもって活動にあたっています。同社では「運転手さんありがとう」の言葉を励みに、今後もパトロールを続けていく考えです。



児童から届いた作文には、パトロールへの感謝の言葉がたくさんつづられている

成功の秘訣

地域と連携し
課題解決に向け
自社の資源を活用

地域のトピックスや情報を 広く、きめ細かく紹介 ミニコミ誌「れじおん」無料配布

新聞販売店

株式会社 どうしん
厚別販売センター

厚別区厚別中央

その他 ■その他

豊かな地域づくりのため ミニコミ誌を無料配布

「豊かな地域づくり」という理念の下、厚別区内の新聞販売所3店と連携し、ミニコミ誌を発行。イベントからサークル活動まで、まちネタを広く、細かくピックアップした「れじおん」のほか、「マンズリースポーツ」、福祉がテーマの「リアン」の3種を新聞折り込みで

区全域に無料配布しています。

「れじおん」は昭和60年から毎月発行し、すでに300号を超えています。100号毎に縮小版も制作し、公共機関に提供。地域の歴史をつづった貴重な書物としても喜ばれています。

区民が多く登場 地域愛あふれる誌面構成

これらミニコミ誌の制作は、

同社が地域交流・情報交換の場

として社屋とは別に建てた「ウエストライフ」という施設内の編集室で行われています。記事ネタは主に住民から寄せられますが、記者や営業担当者も足を使って探し、取材に出かけます。B4サイズ8ページの誌面には

情報がびっしり。区民が多く登場する誌面からは、地域に対する愛情が伝わってきます。

成功の秘訣

地域愛と
使命感をもつ



- ① B4判8ページの「れじおん」は毎月2万8,000部発行
- ② 「地域の人からの“ありがとう”が励みになります」と熊代表
- ③ 図書室や貸出ホールなどがある「ウエストライフ」内の編集室



札幌西区オーケストラに依頼し、実現したコンサート



「映画上映や寺子屋も好評だった」と話す蒲生代表

テニススクール運営

株式会社
エス・イー・ティー

清田区平岡公園

文化・芸術 ■社員参加 ■物品提供

テニスコート地域開放
スタッフ教育にも利点

テニススクール「ウイング」を運営しているエス・イー・ティーでは、テニスコートを地域に開放し、テニス以外のことに使ってもらおう試みを続けています。用途はカルチャー教室やよさこいチームの練習など、利用者によって様々。コートの床がクッション性に富み軟らかいことから、直に座って聴くクラシックコンサートを開くなど、利点を活かした同社主催のイベントも積極的に行っています。

「場所に困っている人は意外に多い。公共施設だと制限があつてできないことでもここならできる可能性はある。テニスをしていない人にもどんどん使ってもらいたい」と蒲生清代表取締役。自由な発想でコートの利用価値を生んでいます。

また、こうした取組はスタッフの教育にも役に立つそう。

「事業計画を立てたりとテニス以外の仕事ができるので、能力開発になる」と語ります。

避難場所としての認知を
広めるための活動

実はこうした活動を続ける根底にはテニスコートを避難場所として認知してもらいたいという蒲生代表の願いがあります。「トイレもシャワーも完備しているの、海外では普通にある話。日本でも阪神大震災以降、そういう例がある。だからまずはここにテニスコートがあることを知ってもらい、ゆくゆくは正式な認可を得て、水や食糧、ストーブなどの備蓄をしたい」と考えています。

成功の秘訣

固定概念に
捕らわれない
柔軟な発想

「思い」が「つながり」を深める 地域に根を下ろした地道な活動 小学校の自転車点検は春の恒例に

自動車分解整備、車両販売

有限会社
やまなか自動車

南区北ノ沢

地域安全 ■機会創出 ■物品提供

**ものを大事にする心を
子どもたちに伝えながら**

やまなか自動車は南区北ノ沢で創業して23年。地元の札幌市立北の沢小学校開校10周年の際に図書を寄贈し、「これを機に何か続けられることを」と、自社でできることを活かして自転車無料出張点検を始めました。地域がら同小学校の校区は坂道が多く、ブレーキが効かなければ危険。点検・修理を終える

と、子どもたちはうれしそうに目を輝かせているそうです。「その輝きを曇らせたくないことが地域に対する自分たちの役割」と山中敏代表取締役。

直して使えるものは使う。子どもたちに「もったいないから大切に」の心を伝えながら、安全に自転車に乗ってもらうための取組は10年続いています。

**周辺住民に少しずつ浸透
地域の支持を得る存在に**

同社ではこのほか、工場周辺のごみ拾いを月に2度実施。毎年夏には敷地を開放し、近隣の人が無料で出店できるフリーマーケット「北の沢リサイクル祭り」を開催するなど、住民とのつながりを深めてきました。「大企業であれ町工場であれハートが大事。自分ができるこ



成功の秘訣

地域性を考え
できることを探し
地道に継続

- ①無料点検には平均20組来場。自転車店の協力も得て実施している
- ②「子どもたちからの“ありがとう”の一言がうれしい」と話す山中代表
- ③11年間続く「北の沢リサイクル祭り」は会社を挙げてのイベント



毎回さまざまなテーマで開催される教室。募集人数以上の申込みがある

「子どもの『理科離れ』が進むなか、電気事業とかかわりが深い科学技術の分野で、青少年の育成をサポートしたい」。そんな思いから、もともとは技術研究所だった建物を利用し、平成7年に「科学

電気・ガス

北海道電力株式会社

中央区大通東1

教育 ■物品提供

小中学生向け科学実験、工作教室開催 専門部署による取組が成功の秘訣

か」と話します。木戸誠司館長はこの取組が成功していることについて、「専門部署を設けて行っていることがポイントでしょうか」と話します。

と年間の教室開催回数は倍以上になっています。ターも多く、設立時に比べると年間の教室開催回数は倍以上になっています。リピーターも多く、設立時に比べると年間の教室開催回数は倍以上になっています。

である。おもしろ実験室」を開設した北海道電力。土日や夏休みなどの休校日に小中学生向けの科学実験、工作教室を開催し、そのほかの日は同施設の図書コーナーなどを一般開放しています。教室への参加者は抽選で決定しますが、年々応募が増え、倍率はうなぎ上り。リピーターも多く、設立時に比べると年間の教室開催回数は倍以上になっています。



写真はおもしろ実験室。参加者に向けた無料送迎バスも運行している



病院で通常業務をしながら、野生動物保護に取り組んでいる

開業以来、傷ついた野生動物の保護やリハビリ、飼養に取り組んでいる齋藤聡院長。北海道には野生動物が身近にいますが、保護収容施設や関連機構がなく、それが取組を始めた理由だといいます。

動物病院

有限会社 石山通り メディカルセンター

中央区南17西10

環境保全 ■その他

野生動物の保護やリハビリへの取組 エゾシカやクマの捕獲も

このほか、世界各地で海洋油汚染事故の被害に遭った野生動物の救護にも携わっています。北海道では漁協組合や第一管区海上保安部と連携。何かあった時にはすぐに駆けつける準備を整えています。

講演会を行うなど活動の幅は広く、ここ数年はまちに出没するヒグマやエゾシカといった有害鳥獣を麻酔銃で眠らせ捕獲し、山に帰すこともしています。道内で対応しているのは齋藤院長のみ。完全なボランティアです。危険を伴い、けがをしたこともありましたが、「市民の安全を守るために」と続けています。



海の油汚染で被害に遭った動物の保護活動も。写真はその講演会の様子



同社の職人が技術を“伝授”。一般の人が利用できる施工体験工房

地域貢献活動を社員のめぐりの一環として位置付け、社屋裏手にある公園の清掃を行っています。「小さな会社は地域の人に支持されてはじめて事業が成り立っていく。大手のような宣伝力がないか

リフォーム・内外装工事

株式会社 アスペック
コーポレーション

東区北32東18

その他 ■社員参加 ■技術提供

地域との絆づくりを大切に考え できること、役立つことを積極的に実践

区の老朽化が進む会館の壁の無料リフレッシュ工事を検討。これから毎年1カ所ずつ実施することを計画しています。

今後は志を同じくする会社や商店とともにイベントなども企画し、地域づくりに貢献していきたいと考えています。



公園の清掃活動は週2回。社員が持ち回りで業務開始前に行っている

からこそ、地域との絆づくりが大切」と矢野哲夫代表取締役。長年の清掃活動は地域から感謝されています。町内会からは「恩返し」の意味を込めて、元町公園会館改修工事の依頼が同社にありました。現在、住民参加型の工事方法を同社から提案中です。

コンサドーレ札幌運営

株式会社 北海道
フットボールクラブ

豊平区羊ヶ丘

環境保全 ■人材活用 ■機会創出



© 2010 H.F.C
コンサの森で行う「森の教室」。カミネッコンでヤチダモなどを植樹

Jリーグクラブ・コンサドーレ札幌を運営する北海道フットボールクラブは、「ホームアイランド北海道」を掲げ、全道各地で地域貢献活動を実施。選手によるサッカー教室、年間100カ所を

地域に密着した様々な活動を展開 子どもたちに豊かな緑を残す森づくりも

平成20年からは環境保全の取組の一環として、台風によって大きな風倒被害を受けた支笏湖周辺国有林の復興を目指す「コンサ百年の森づくり」を始動。一般公募の参加者とともに、3年間で約7千本の苗木を植樹したほか、子どもたちに森の役割や大切さを知ってもらうために「森の教室」も開催しました。

超えるドーレくん（クラブマスコット）の福祉施設や幼稚園・保育園訪問、ホームゲームの際に小・中学生を無料招待する「夢プランファミリーシート」事業など、活動は多岐にわたります。



© 2010 H.F.C
「森の教室」に参加した千歳市立緑小学校の子どもたち
※写真提供/H.F.C



DOINGではサークル活動も盛ん。カミネッコン作りでは古紙提供も

社屋を新築した際、2階に多目的室「DOING」を造り、地域への無料開放を始め、道新ながさわ。それまでの地域にはなかった文化教室や集まりなどに使ってもらおうと考えてのことです。

新聞販売所

有限会社 道新ながさわ

清田区平岡

文化芸術 ■物品提供

文化教室や集会に使ってほしいと 2階ホール「DOING」を無料開放

このほか、車椅子も無料で貸し出しており、近郊の人には「お届け&回収」サービスも実施。次第に利用者が増えてきているといえます。

葛西和光専務取締役は「これからも、地域の役に立つことなら何でもやってみたい」と意欲的に話します。



専務取締役の葛西さん。「DOING」のある社屋の前で

教室募集などの告知は特にしませんでした。が、口コミで広がり、現在、押し花やウクレレ、ヨガ、子ども向けのダンスなど、毎日多種多様な教室が開催されています。会場利用料を徴収しないことで、どの教室も受講料が安く済んでいるそうです。

土木、舗装、とび・土工、造園

株式会社 日栄建設

厚別区厚別西

環境保全 ■その他



鉄骨にネットを張った立派なごみ箱。社員で手作りし、無償で提供

冬は雪で隠れてしまうごみステーション。不便を感じるのほもちろんですが、除雪の作業もしづらいことから、「しっかりとごみ箱があった方がいい」と下谷内専則代表は考えたといえます。町内

使いやすいうえ、見た目もすっきり 廃材を用いた手作りのごみ箱

このほか、毎年春には、近郊の同業者と連携し、大規模なボランティア清掃も行っています。

「使いたい」「見たい」がきれい」といった感謝の言葉がモチベーションになっていくそうです。



「住宅街にある会社なので地域への感謝の思いは深い」と下谷内代表

会に話を通し、手作りのごみ箱を提供することを決意。地域への恩返しへの気持ちも込めて、平成16年から毎年2〜3基ずつ製作、設置しています。

ごみ箱の材料には工事現場で不用になった鉄骨などの廃材を利用。制作には溶接が必要なため手間も時間もかかりますが、地域の人から寄せられる「使いたい」「見たい」がきれい」といった感謝の言葉がモチベーションになっていくそうです。

システム開発

株式会社 北海道総合 技術研究所

中央区北10西24

その他 ■社員参加



社外の任意団体が開催している石狩
浜のごみ拾い活動にも参加

IT技術者が社員の大半を
占める北海道総合技術研究所
では、社外に目を向ける機会
を創出しようという代表の意
向で、平成17年より、社内整
備・活性化五カ年計画を開始。
社員が「社内教育」「PR」

社外に目を向ける機会としてスタート 清掃活動に励むボランティアチーム

現在、社員全員参加を目指
し、過去の活動内容を発表す
るなど、様々な仕掛けを試行
中。また、ほかの活動にも挑
戦したいとも考えています。

「セキユリティ」「防災」
「ボランティア」という5つ
のチームのいずれかに属し、
成果を上げるという取組です。
7名が在籍する「ボラン
ティア」では、リングプルや
エコキャップの収集、清掃活
動を行っています。清掃活動
時はほかの社員にもメールな
どで声をかけ参加を募ります
が、今一番の悩みは参加メン
バーが毎回固定化しつつある
ということです。



これからもっと参加人数を増やした
いという会社周辺のごみ拾い

テレビ局

株式会社 テレビ北海道

中央区大通東6

子育て ■人材活用

**技術に裏付けされた表現力
TVhアナ「読み聞かせ隊」**
開局20周年を契機に、希望する保育園
や幼稚園、学校を対象にしたアナウン
サー読み聞かせボランティアを始めまし
た。最初はノウハウのあるNPOに相乗
りし、経験を積んだ後に単独活動を開始。
プロならではの表現力が評判を呼び、口
コミで依頼がくることもあるそうです。



大藤アナと丹羽アナ
による読み聞かせ

幼稚園

学校法人 資生学園 つぼみ幼稚園

中央区南7西25

福祉 ■その他

**地域交流活動の一環として
園児が福祉施設を訪問**
地域との交流を大切に考えるつぼみ幼
稚園では、敬老の日やクリスマスなどの
行事に合わせて年4回、園児が介護老人
福祉施設を訪問。踊りや歌、折り紙など
を一緒に楽しんでいます。子どもたちの
訪問は、あらかじめ施設の年間計画に加
えられるほど、入所者たちに好評です。



園児の訪問は施設に
も喜ばれている

保育園

社会福祉法人 藤美福祉会 菊水元町保育園

白石区菊水元町

子育て ■機会創出 ■技術提供

**開かれた保育園を目指して
人材と教材を地域に開放**
地域に開かれた保育園を目指し、月
1回、保育園に通っていない未就学児
とその保護者を対象に園を開放。在園児
と一緒に保育する「子育てサロン もとま
ちっ子」を開催しています。要望に応え、
子育ての不安や悩みに関する相談も受付。
常連の参加者も多く、好評を得ています。



保育士の下、いろい
ろな遊びを体験